

## 3児の母、フルタイムの教員から45歳で弁護士に

生井 みな絵 (平成9卒)

私は今、東京都大田区にある「RHA法律事務所」というところで弁護士として働いています。弁護士登録したのは去年の12月。バジビかぴかの新人弁護士です。

### 秋田高校時代

小学生の頃から「裁判官」に憧れていた私は、大学は司法試験合格者の多い法学部に行こう、と考えていました。そのため志望校は明確でしたが、実際には勉強熱心というわけではなく、吹奏楽部に所属し、遅くなるまで部室でおしゃべりしたり、合奏したり、のんびりと高校生活を楽しんでいました。当時、野球部では同学年の後藤光尊選手たちが甲子園に出場するなど活躍していた頃で、授業を抜け出して野球場へ応援に行ったことも懐かしい思い出です。

18歳の春、第一志望の大学に合格したことを報告し、「上京して司法試験を受けます」と深く考えず宣言した私に、当時の担任の先生は笑って言いました。

「あなたはがんばりやさんだからな。できるかもしれないな」私はびっくり仰天しました。それまで一度も、自分が「がんばりやさん」だと思ったことはありませんでした。むしろ、怠け者のマイペース、志望校に合格できたのは運が良かっただけ、と思っていましたし、周囲からもそう思われていると感じていました。

この時の先生の言葉は、私の胸に深く残り、「自分はがんばりやさんなんだ、できるはずだ」と、くじけそうな時に励ましてくれる大切な言葉になりました。

### 大学時代から法科大学院入学まで

就職氷河期真っただ中の2001年に大学を卒業した私は、民間企業への就職も決まらず、もちろん司法試験にも受からず、偶然の出会いに導かれるように、教育の世界へ足を踏み入れました。そして、秋田県内にある養護学校の「臨時実習助手」から始まり、通信教育で教員免許状を取得後は、秋田県内の小学校の臨時講師、宮城県の小学校教諭、東京都の小学校教諭、と地域を変えながら学校現場で働き続けました。

しかし、ふとした時、「司法試験どうなった??」と、もう一人の自分が問いかけてきます。教員としての仕事が充実していく一方で、私にとって教職は「第二の選択」だ、という思いは、消えることはありませんでした。

3人目の子供を出産後、職場に復帰してみて、十分に仕事と育児を両立できると感じました。そこで、もう少し「がんばれる」かもしれないと、38歳の春、働きながら通える社会人のための夜間ロースクール、筑波大学法科大学院に入学しました。

### 仕事&育児&ロースクール→→司法試験合格

ロースクールは、平日夜2~3日と、土曜日に授業があります。朝起きて子供たちを学校や保育園に送り、フルタ



なまい・みなえ / 平成13年早稲田大学法学部卒業。旧姓大石。学校現場で教員として約20年間勤務。働きながら夜間ロースクールに通い、司法試験に合格、45歳で弁護士に転身。現在所属するRHA法律事務所では、一般民事から企業法務まで幅広く扱う。3児の母。好きなアーティストはMr.Children。

イムの仕事が終わらせ、大急ぎで職場からロースクールに移動して授業、家族の寝静まった夜遅くに帰宅して課題に取り組む生活は、体力的には厳しいものでした。他方で、法律の勉強には、まるで古い友達に再会したような懐かしさと、本来自分が目指していた道に戻って来ることができたという安心感がありました。そして、自分は自由だ、という何とも言えない高揚した気分で、精神的には満たされていたように思います。

また、ロースクールでは、同じようにセカンドキャリアを夢見るさまざまな職種・年代の仲間と出会えました。

共働きなので、夕食作りは普段から夫の担当でした。私がロースクールの授業のある平日は、それに加えて保育園の迎えから小学生の宿題チェック、お風呂に夕食、兄弟げんかの仲裁、寝かしつけ等々を夫が一手に引き受け、支えてくれました。本当に大変だったと思いますし、私の話を聞いた人たちは、一緒に、「だんなさんがすごい」と言います。

ロースクールに通い始めた頃は、子供たちもまだ幼く、授業がない日は寝かしつけで読み聞かせをしていました。小4だった長男のリクエストは、「ハリーポッター」シリーズ。1日1章ずつ読みましたが、それでも30分以上かかります。読んでいる間に、次男と末娘はすっかり夢の中。長男はもう自分で読めるのに、読み聞かせをリクエストする、その気持ちを考えると母親として切なくて、一生懸命音読したことを懐かしく思い出します。

家族全員に負担をかけていることに申し訳なさ感謝を感じながら、勉強を続け、ロースクールを4年で修了し、2回目の司法試験で合格することができました。

### これから

弁護士となった今でも、業務の空き時間を使って、近所の小学校で週3時間ほど、国語を教えています。今後は、弁護士として目の前の仕事に真摯に取り組むと同時に、スクールロイヤーとしてのかかわり方で学校法務や法教育に取り組んだり、学校を規律する法律について現場の教員としての意見を発信したりするなど、教員としてのキャリアを生かした法律の専門家としての仕事も開拓していこうと思っています。